

講演タイトル：地層処分にはまだスタンダードもマニュアルも無い

1. 講演者プロフィール

氏名：大江 俊昭

1978-1993 (財) 電力中央研究所 研究員

1993-1995 (財) 電力中央研究所 グループリーダー

1995-2000 東海大学 助教授

1999-2001 日本原子力学会 バックエンド部会長

2001-2018 東海大学 教授

現在 東海大学名誉教授 および 原子力発電環境整備機構 評議員

東電設計株式会社 顧問

2. 講演概要

地層処分場は未だ実物が存在せず、極論すれば架空の存在に近いにも拘らず、研究者の間には「地層処分場」として共通のイメージが連想されるのは何故であろうか？ 一つは国際的な連携の中で情報交換が進み、認識が共有されてきたことがあげられるだろう。ただ、実体がないものに価値観が固定されることが果たして良い事なのか、このことに対して、常に懐疑の念を抱くことが一研究者である演者の役目であると思っている。

地層処分は総合科学の対象である。しかし、近年のように専門領域が細分化されると、個々の断片は理解できても全体の意義が判断し辛くなる。我国ではなぜ地層処分場が300m以深となっているのか？ ガラス固化体である理由は何なのか？等、当たり前のような前提の意味をもう一度見直してみることは、各々の研究の意義をもう一段掘り下げることにつながるのではないだろうか。

地層処分の研究に携わって約40年。いずれ情報が散逸してしまう前に、演者が長年携わってきた「安全評価」を中心に、過去の経緯や失敗などを次の世代の研究者の方にお伝えして、何らかの参考にしていただければ幸いである。